

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 9 日現在

機関番号：32665

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26350389

研究課題名(和文) 植民地時代以降の台湾原住民の画像・映像資料の鑑定と情報集成及び人類学的考察

研究課題名(英文) Making expert opinions and organizing information about the images and films concerning Taiwan Indigenous peoples since Jaoanese colonial period, with anthropological research about them.

研究代表者

清水 純 (SHIMIZU, Jun)

日本大学・経済学部・教授

研究者番号：30192610

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,800,000円

研究成果の概要(和文)：国内外の研究機関や博物館には、日本統治時代から戦後間もない時期にかけて撮影された画像・映像資料が散在している。本研究では(1)国内外の研究機関・博物館・個人等の所有する画像資料に関する情報を収集し、台湾原住民の画像・映像資料に関する情報を抽出整理し、(2)画像・映像の内容鑑定のための現地調査を進めて情報の質と精度を高め、(3)その内容に関する機関横断的な相互の関連付けを行い、(4)研究への新たな資料活用を实践した。

研究成果の概要(英文)：Photos and films concerning Taiwan Indigenous peoples recorded since Japanese colonial period and just after the WWII are scattered among the Institutions and Museums in japan and abroad. Our project has accomplished our initial purpose (1) to collect information about photos and films possessed by institutions, museums and individuals, and organaising these data, (2)to practice field research for appraising these pictures and images for raising the value and quality of these records, (3) to correlate the data cross-institutionally, (4)to promote practical use for our anthropological research.

研究分野：文化人類学

キーワード：台湾原住民 画像 映像 鑑定 情報集成 植民地時代 デジタル化 所蔵機関

1. 研究開始当初の背景

近年、博物館や研究所等の資料のデータベース化が進み、台湾原住民に関する映像資料のなかにもインターネット上での閲覧が可能になったものが少なくない。80年代末に開設された東京大学総合研究博物館の東アジア・ミクロネシア古写真資料画像データベース(鳥居龍蔵撮影の写真収録)をはじめ、2003年に開設された東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所(以下AA研と表記)の小川・浅井資料データベースには、多数の台湾原住民映像資料が収められている。

しかし映像に付された解説の情報量は限られたものしかなく、また、場所や民族名に関して、不明な点も多く、また誤謬も見受けられる。本研究は、各研究機関が個別に整理公開してきた映像資料を互いに横断検索し、映像の内容を比較すると同時に、データベース化がなされていない各地の博物館・研究機関等に散在する資料を横断的に探索・整理し、写真資料の相互関連性と映像情報を明らかにする作業を行うものである(たとえば国立民族学博物館・瀬川孝吉コレクション、沖縄県立公文書館・河村只雄資料など)。

その過程で文化人類学の方法を用いた現地での聞き取り調査を行うのが、本共同研究の中心的課題である。映像資料を提示して聞き取りを行うことにより、伝統的生活文化の詳細が現地の人々の記憶から掘り起こされ、映像を取り巻く過去の社会生活や習俗に関する情報を収集することが可能になる。

代表者は、1986-87年文部省研究費補助金総合研究(A)「環シナ海・日本海諸民族の音声・映像資料の再生・解析」において、浅井恵倫撮影による昭和初期の台湾原住民の写真・動画の鑑定に協力した。2001年~2003年には、AA研の「浅井・小川未整理資料の分類・整理・研究プロジェクト」にも共同研究者として参加した。(成果報告は、『小川尚義・浅井恵倫 台湾資料研究』〔2005年 AA研〕、代表者は論文2編、連携研究者山本は1篇を執筆。)しかし、研究者の記憶に基づく映像解析だけでは十分でないと考え、プロジェクト終了後、代表者は単独で台湾での現地調査を実施し、撮影された〈場所、人、民族、文化内容〉に関する住民からの聞き取りを進めてきた。

一方、代表者が行なった三菱財団助成による2006年度の研究では、植民地期戸籍の調査と聞き取り調査とを組み合わせることによって精度の高い鑑定結果が得られた。(以上の成果は清水「タイヴォアンの民俗に関する覚え書」、『埔里盆地における最後の原住民』〔『台湾原住民研究』10号、2006年、11号、2007年 風響社〕として発表した。)

これまでの調査を通じ、聞き取り調査によって今なお判明する事実が少なくないことがわかってきた。代表者の経験に照らすならば、植民地時代後期に青少年だった人々の記憶を参考にすれば、植民地時代初期の事実さ

えもまだわずかながら判明する可能性が残されている。一例として、109年前の鳥居龍蔵撮影による写真の被写体が80代半ばのインフォーマントの記憶に拠って判明したことを挙げたい。

とはいえ今の時期を逃しては、当時を知る高齢者への調査も一層困難を極め、近い将来には不可能となる。鳥居龍蔵の台湾調査からは100年以上が経ち、浅井恵倫の時代からも70余年が過ぎている。高齢者への聞き取り調査は急がなければならない。そうした意味においてもこのような研究はきわめて緊急性の高いものであるという認識のもとにプロジェクトを開始した。

2. 研究の目的

日本植民地時代に撮影され、博物館・研究所等で長期にわたって保存されてきた台湾原住民に関する映像資料は、過去の文化・社会を知るための貴重な民族誌資料であるにもかかわらず、多くの場合、大切に整理保管されたままであり、映像の伝える情報は深く掘り下げて解明されることなく今日に至っている。しかし、植民地時代から一世紀を経た今日、映像が伝える情報は十分な検討に値するものと認められる。

台湾原住民の社会は、植民地統治下における伝統文化の強制的な改変、戦後の台湾の経済成長に伴う大規模な社会変容・伝統文化消失という急激な流れを経てきた結果、かつての姿とは大きく異なったものとなった。原住民の権利促進・文化復興運動が隆盛となっている現在、過去の映像資料に残された情報を探求することは、研究者にとっても、また原住民自身にとっても、きわめて重要な今日的意義を持つ。

本研究は、(1)国内の博物館・研究所等に保存された映像資料の横断的相互関連付け作業を行い、(2)内容鑑定のための現地調査を通じて情報の質と精度を高め、(3)研究や展示への新たな資料活用方法の開拓を目指すものである。

さらに、本研究は、単なる懐古的なサルベージ・アンソロポロジーではなく、何よりも台湾原住民の現在の姿を理解することを最終目的とするものである。過去の映像記録の解析結果を手がかりとして、原住民の社会が政治・経済的環境の大きな変化のうねりのなかでどのように変容を遂げてきたかを考察したいと考えている。

文化人類学の観点からの今日的関心としては、政府の原住民族政策と関わる民族意識の変化にひとつの焦点がある。代表者は2006年度トヨタ財団の研究助成を受けて、平埔族の民族的アイデンティティと文化運動に関する調査研究を行なったが、このような現代的な問題関心に結び付けて映像記録を行かしたいと考える。連帯研究者もそれぞれの文化人類学的問題関心(漢化、民族的アイデンティティ、政府の民族政策、入れ墨研究など)

を持っており、鑑定結果を元に各自の問題意識にしたがって、最終年度には研究論文を作成することを目的としている。

3. 研究の方法

すべての原住民集団についての研究を進めるには時間的な制限もあるため、本研究ではいくつかの集団に絞って調査を進めた。具体的には、代表者および分担者の関心の対象となってきた平埔諸族、およびタイヤル族、タロコ族、セデック族、アミ族、サキザヤ族、パイワン族を中心とし、博物館・研究機関が所蔵する映像資料の横断的調査、およびそれらの調査結果を基にした現地調査を行なった。

現地調査の方法は、以下のように計画された。(1) 写真を複製して持っていき、現地の人々に対して、撮影場所、人物、写真に現われた活動や事に関する風俗習慣などの聞き取りを行なう。(2) 日本時代の戸籍、撮影者のフィールドノートなどの記録を参照し、被写体となった人々についての情報を収集する。(3) 被写体となった人とその子孫や、住んでいた村、または民族の、映像記録の時代から今日までの歴史等を、地道な聞き取りと文献調査によって探索し、ライフストーリー、家族史、村落史を明らかにする。そして、現地調査で得られた結果に加えて、(4) 時代背景やその後の社会変化などを関連論文や台湾総督府関連の文献資料の検討を通じて考察する。

4. 研究成果

平成 25 年度までの科研費補助金（基盤研究）による台湾原住民の画像映像研究を引き継ぐ今回のプロジェクトでは、台湾と日本だけではなく、アジア、ヨーロッパなどにも視野を広げ、前年度までの基盤研究を引き継ぎつつ、探索地域を拡大して、画像を中心とした資料の収集にあたった。

26 年度の実績としては、(1) 国内外の研究機関・博物館・個人などの所有する画像資料から、台湾原住民に関するものを抽出整理した。(2) 台湾における実地調査で写真の鑑定作業を行った。(3) 各機関の資料の内容を比較検討する作業を行った。

27 年度はアメリカ、イギリス、カナダなどの博物館に所蔵された台湾原住民資料について、インターネットを利用して調査した。また、ニューヨークのアメリカ自然史博物館に浅井恵倫のコレクションについての問い合わせを行い、コレクション入手の経緯を明らかにする書簡資料の電子データの提供を受けて解析を開始した。写真やフィルムなどの資料は限られているので、幅広く物質文化の資料写真も含めて画像データの収集を行った。香港・シンガポールでは、現地の研究機関や図書館などで資料の調査を行った。また、写真データ中の道具についてその使用方法についての研究などに応用する試みを行

った。プロジェクトが進行するにつれて、台湾の植民地時代の写真にこだわらず、戦後の比較的新しい画像・映像資料についても検討対象とすべきであることが、調査を通じて明らかになったため、状況を見て判断しつつ対象を広げて研究を進めるよう心がけた。また、インターネット上に公開されている博物館収蔵品の写真も少なからずあり、これらが比較の対象として有効であることがわかった。さらにインターネット資料の中には、博物館収蔵品の写真や原住民関係の論文の画像データも含まれており、民族学的写真・フィルム・図像だけではなくこの種の画像データも研究上重要であり、利用可能性を幅広く周知する必要があると考え、原住民研究に関連する論文画像データの整理を行った。

平成 28 年度は、調査活動の継続とともに、最終年度として各自の調査資料のとりまとめ作業を並行して行った。

3 年間にわたる研究を通じて、メンバーはそれぞれの研究と成果報告を行った。清水は浅井恵倫の資料と写真に関する情報収集を行ったほか、台湾大学の画像資料と浅井コレクションの関連付け及び、アメリカ自然史博物館の浅井コレクション所蔵の経緯について画像資料および書簡に関する調査を行い、成果を論文として取りまとめている。原は画像資料を利用した研究を行い、学会発表と、『南島史学』への論文投稿を行った。また、浅井恵倫の写真をもとにしたフィールドワークを行い、論文を準備中である。山本は日本、台湾、アメリカ、オーストラリアの公共図書館の資料調査を行い、台湾原住民の写真がスミソニアン研究所、アメリカ地理学会図書館、国立オーストラリア図書館、アメリカのゲッティ研究所などに所蔵され、デジタル画像資料として公開されていることを確認し、これらの資料の調査を行った。また、イレズミ研究の著書を刊行し、これらの調査で得られた画像資料を利用した。

平成 29 年 3 月には最終報告の研究会を開き、成果の報告を行った。3 名は引き続き、研究成果について論文を執筆、発表する予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 5 件)

清水 純、17・18 世紀の台湾東海岸における族群関係の歴史的展開 トルビアワン人を中心に、研究紀要 84 号、査読無、2017 (印刷中)、pp.1-23

清水 純(朱鵬訳)、17 - 18 世紀的台湾哆囉美遠族族群関係、厦門大学学报(哲学社会科学版)、査読有、239 巻、2017、pp.79-88

原 英子、台湾バナナのイメージの形成に関する問題 日本統治時代の菓子「新高バナナキャラメル」と台湾バナナ、南島史学、

査読有、84 卷、2016、pp.166(55)-149(72)
山本 芳美(林虹瑛訳)、従伝説和日本公文書資料中看到的陳達達和張義春、卑南学資料彙編、第二輯、査読有、2016、pp.453-472
山本 芳美、台湾原住民族関連の博士論文とその目録：日本の現状と課題、台湾原住民研究、19号、査読有、2015、pp.164-186

〔学会発表〕(計 5 件)

清水 純、17,18 世紀タツキリ溪周辺の族群関係と民族移動史、第 9 回台日論壇、2016/8/22、台湾・台北市・政治大学

原 英子、台湾バナナと日本人、南島史学会第 45 回研究大会、2016/7/9、沖縄県那覇市・沖縄県立博物館・美術館

山本 芳美、日本刺青文化與社会認同、招待講演、2016/5/7、台湾・台北市・中央研究院民族学研究所：行動人類学研究群

清水 純、トルビアワン族をめぐる族群関係史、『台湾原住民の族群関係與歴史、現状、未来』国際シンポジウム、2016/4/30、中国・厦門市・厦門大学

山本 芳美、伝説と日本の公文書に見る陳達達と張義春、2015/10/17、第二回卑南学学術シンポジウム、台湾・台東市・国立史前博物館

〔図書〕(計 1 件)

山本芳美、平凡社新書、イレズミと日本人、2016、221

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

清水 純 (SHIMIZU, Jun)
日本大学・経済学部・教授

研究者番号：30192610

(2) 研究分担者

原 英子 (HARA, Eiko)
岩手県立大学盛岡短期大学部・教授
研究者番号：80180991

(3) 研究分担者

山本 芳美 (YAMAMOTO, Yoshimi)
都留文科大学・文学部・教授
研究者番号：50363883